

リモートI/O R7I4D シリーズ		
取扱説明書 (操作用)	CC-Link IE Field ネットワーク用、高分解能、高速直流電圧 ／電流入力、絶縁 4 点、コネクタ形スプリング式端子台 少点数入出力ユニット	形 式
		R7I4DCIE1-SVAF4-4

目 次

ご使用いただく前に	2
ご注意事項	2
各部の名称	3
パラメータ設定	5
接 続	6
取付寸法図 (単位: mm)	8
CC-Link IE Field ネットワーク仕様	8
データ配置	9
ビット配置	10
設定手順 (通常モード)	11
設定手順 (同期通信モード)	21
トラブルシューティング	24
保 証	26

ご使用いただく前に

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

■梱包内容を確認して下さい

- ・ 高分解能・高速直流電圧／電流入力ユニット1 台
- ・ 縦・壁取付用スライダ2 個

■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書では、本器の取扱い方法、外部結線および設定方法について詳細に説明します。

■CSP+ファイル

CSP+ファイルは弊社のホームページまたは CC-Link 協会ホームページ <https://www.cc-link.org> よりダウンロードが可能です。

ご注意事項

●EU 指令適合品としてご使用の場合

- ・ 本器は盤内蔵形として定義されるため、必ず導電性の制御盤内に設置して下さい。
- ・ お客様の装置に実際に組込んだ際に、規格を満足させるために必要な対策（例：電源、入出力にノイズフィルタ、クランプフィルタの設置など）は、ご使用になる制御盤の構成、接続される他の機器との関係、配線等により変化することがあります。従って、お客様にて装置全体で CE マーキングへの適合を確認していただく必要があります。

●供給電源

- ・ 許容電圧範囲、消費電流
スペック表示で定格電圧をご確認下さい。
直流電源：定格電圧 24 V DC の場合
24 V DC \pm 10 %、110 mA 以下

●取扱いについて

- ・ 本体の取外または取付を行う場合は、危険防止のため必ず、電源および入力信号を遮断して下さい。
- ・ 端子台を取外または取付を行う場合は、危険防止のため必ず、電源および入力信号を遮断して下さい。

●設置について

- ・ 屋内でご使用下さい。
- ・ 塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。
- ・ 振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。
- ・ 周囲温度が -10 \sim +55℃を超えるような場所、周囲湿度が 30 \sim 90 % RH を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

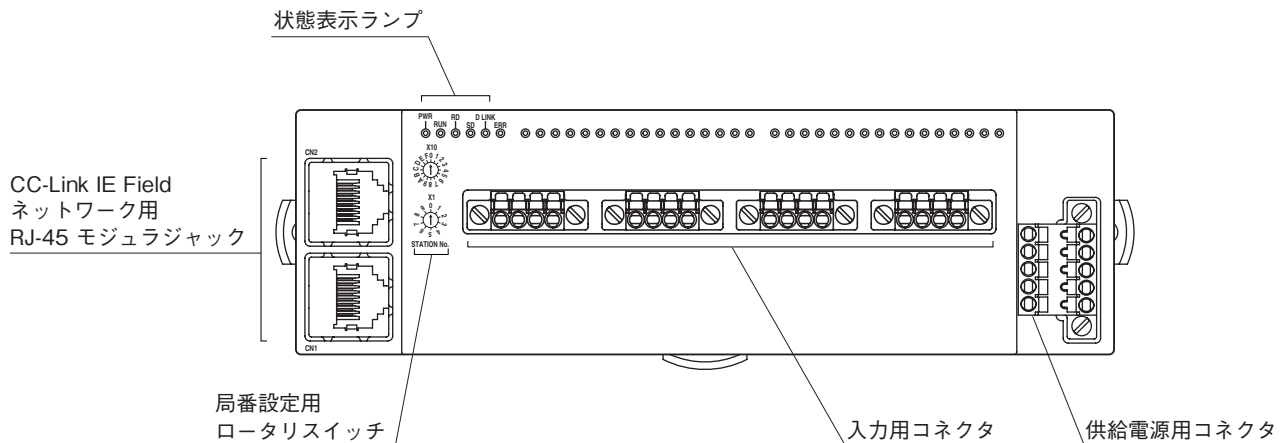
●配線について

- ・ 配線は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。
- ・ ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。
- ・ 感電防止のため、必ず端子カバーを閉じて下さい。

●その他

- ・ 本器は電源投入と同時に動作しますが、すべての性能を満足するには 10 分の通電が必要です。

各部の名称



■状態表示ランプ

ランプ名	表示色	内 容	状 態	意 味
PWR	緑色	内部電源	点灯	正常
			消灯	異常
RUN	緑色	動作状態	点灯	正常動作中
			消灯	機器エラー発生中
RD	緑色	データ受信	点灯	データ受信
			消灯	データ未受信
SD	緑色	データ送信	点灯	データ送信
			消灯	データ未送信
D LINK	緑色	データリンク伝送状態	点灯	データリンク中(サイクリック伝送中)
			点滅	データリンク中(サイクリック伝送停止中)*1
			消灯	データリンク未実施、解列中
ERR	赤色	エラー状態	点灯	重度エラー発生中*2
			点滅	軽度エラー発生中*3
			消灯	正常動作中

*1、予約局に設定中、リンク停止中など。

*2、上位通信異常、不揮発性メモリ異常など。

*3、電源起動後に局番設定用ロータリスイッチが変更された、または入力範囲異常を検出した。

■局番設定用ロータリスイッチ

局番の上位桁を上側のロータリスイッチで、下位桁を下側のロータリスイッチで設定します。(設定可能範囲：1～120)

実際のご使用にあたって設定可能な局番は、マスタユニットの取扱説明書にてご確認ください。(工場出荷時設定：01H)



局番上位桁設定 (×10)



局番下位桁設定 (×1)

*局番設定例

局番上位桁設定のロータリスイッチにおいて、A：10、B：11、C：12を表します。

例えば局番 115 に設定したい場合は、局番上位設定：B、局番下位桁設定：5 に合わせます。

D、E、F は未使用ですので設定しないで下さい。

R7I4DCIE1—SVAF4—4

■入力配線の接続

適合コネクタ：FMC1,5/4-STF-3,5

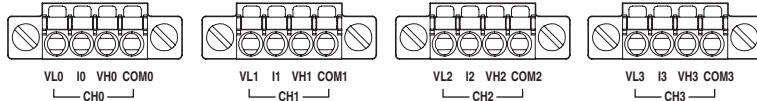
(フェニックス・コンタクト製) (本器に付属)

適用電線サイズ：0.2～1.5 mm²

剥離長：10 mm

推奨圧着端子：

- ・ AI0,25-10YE 0.25 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ AI0,34-10TQ 0.34 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ AI0,5-10WH 0.5 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ AI0,75-10GY 0.75 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ A1-10 1.0 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ A1,5-10 1.5 mm² (フェニックス・コンタクト製)



ピン番号	信号名	機能	ピン番号	信号名	機能
1	VL0	低電圧入力 0	9	VL2	低電圧入力 2
2	I0	電流入力 0	10	I2	電流入力 2
3	VH0	高電圧入力 0	11	VH2	高電圧入力 2
4	COM0	コモン 0	12	COM2	コモン 2
5	VL1	低電圧入力 1	13	VL3	低電圧入力 3
6	I1	電流入力 1	14	I3	電流入力 3
7	VH1	高電圧入力 1	15	VH3	高電圧入力 3
8	COM1	コモン 1	16	COM3	コモン 3

■供給電源の配線

適合コネクタ：TFMC1,5/5-STF-3,5

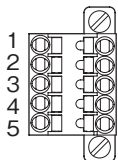
(フェニックス・コンタクト製) (本器に付属)

適用電線サイズ：0.2～1.5 mm²

剥離長：10 mm

推奨圧着端子：

- ・ AI0,25-10YE 0.25 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ AI0,34-10TQ 0.34 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ AI0,5-10WH 0.5 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ AI0,75-10GY 0.75 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ A1-10 1.0 mm² (フェニックス・コンタクト製)
- ・ A1,5-10 1.5 mm² (フェニックス・コンタクト製)



- | | |
|-------|------|
| ①PWR+ | 供給電源 |
| ②PWR- | 供給電源 |
| ③FE | 機能接地 |
| ④NC | 未使用 |
| ⑤NC | 未使用 |

注) コネクタに刻印されている数字と本器の端子番号は無関係です。本器の取扱説明書に従って配線を行ってください。

パラメータ設定

上位エンジニアリングツール（GX Works2 または GX Works3）を用いることにより、以下の設定が可能です。

■チャンネル個別設定

項 目	設定範囲	初期値
未使用設定	CH 有効 CH 無効	CH 有効
入力レンジ	-10～+10 V DC -5～+5 V DC -1～+1 V DC 0～10 V DC 0～5 V DC 1～5 V DC 0～1 V DC -0.5～+0.5 V DC -20～+20 mA DC 0～20 mA DC 4～20 mA DC	-10～+10 V DC
バイアス設定	-320.00～+320.00(%)	0.00 (%)
ゲイン設定	-3.2000～+3.2000	1.0000
データタイプ	符号あり 符号なし	符号あり
符号あり ゼロスケリング値	-32,768～+32,767	0
符号あり フルスケリング値	-32,768～+32,767	10,000
符号なし ゼロスケリング値	0～65,535	0
符号なし フルスケリング値	0～65,535	10,000

■チャンネル一括設定

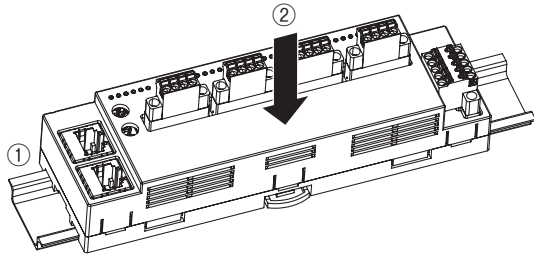
項 目	設定範囲	初期値
移動平均回数	1、2、4、8、16、 32、64、128、256	1

取付方法

■DIN レール（横）取付

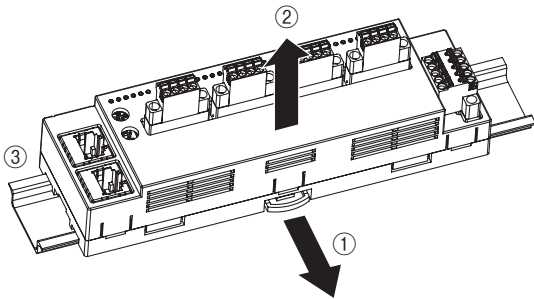
・取付の場合

- ① 本体裏面の upper フックを DIN レールに掛けます。
- ② 本体下側を押込みます。



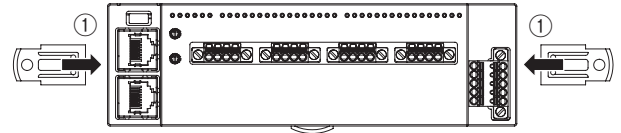
・取外の場合

- ① マイナスドライバーなどでスライダを下に押下げます。
- ② 手前に引いて本体下側を取外します。
- ③ 本体上側を DIN レールから取外します。

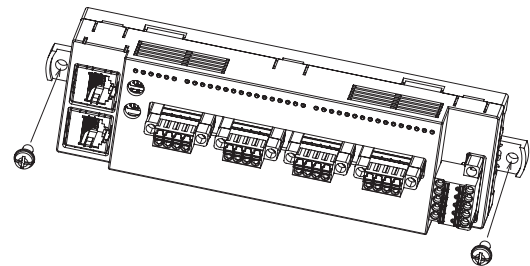


■壁取付

- ① 下図のように付属の 2 つのスライダを本体背面のレールに合うようにセットし、1 回カチッと音がするまで挿入して下さい。



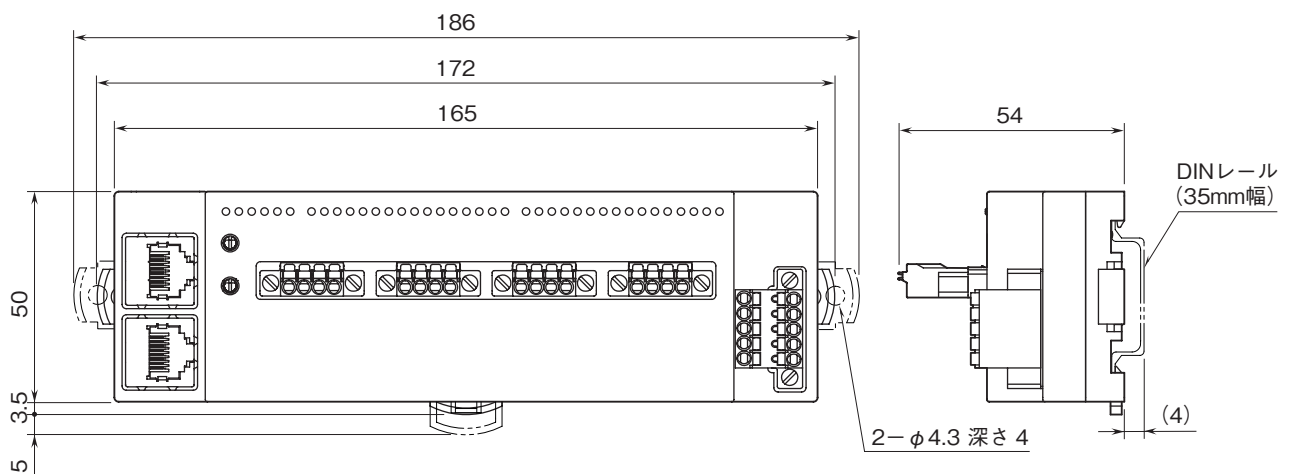
- ② 取付寸法図を参考に、M4 ねじで取付けて下さい。
(締付トルク：1.4 N・m)



接 続

各端子の接続は端子接続図を参考にして行って下さい。

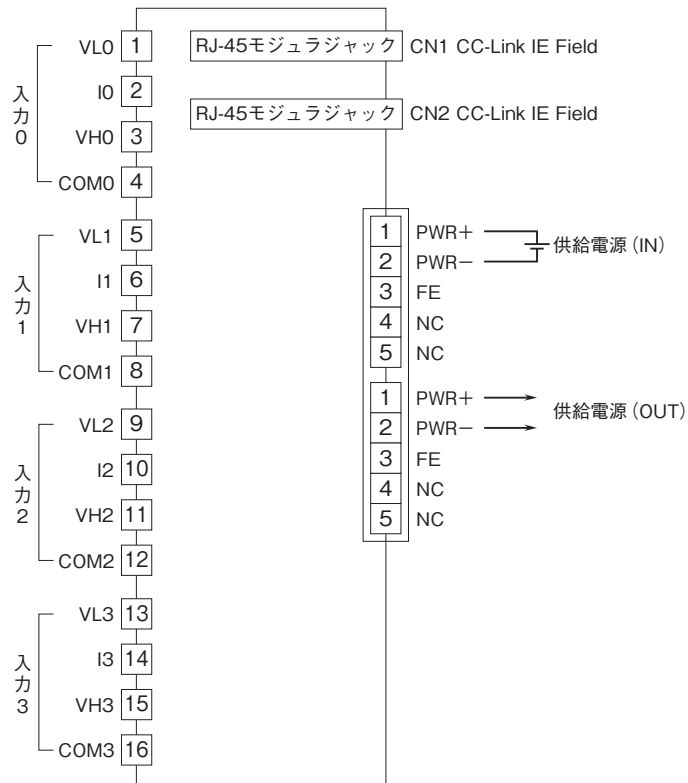
外形寸法図（単位：mm）



端子接続図

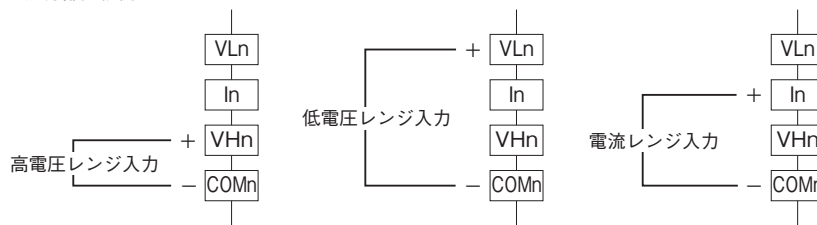
EMC（電磁両立性）性能維持のため、FE 端子を接地して下さい。

注）FE 端子は保護接地端子（Protective Conductor Terminal）ではありません。

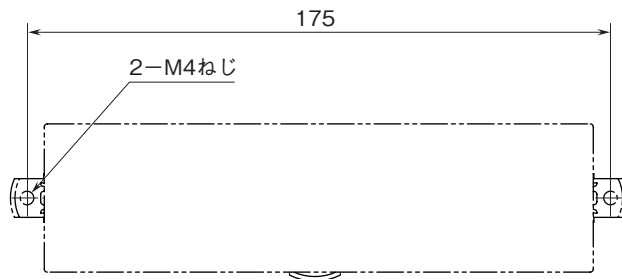


注）CC-Link IE Field ネットワーク用 RJ-45 モジュラジャック のCN1とCN2は、配線の接続順序に制約はありません。

■入力部接続例



取付寸法図（単位：mm）



CC-Link IE Field ネットワーク仕様

通信規格：IEEE 802.3

伝送種類：1000BASE-T

通信速度：1 Gbps

伝送ケーブル：CC-Link IE Field 準拠のケーブル

二重シールド付きツイストペアケーブル (CAT5e)

RJ-45 コネクタ

トポロジ：ライン、スター、リング

最大接続台数：120 台（スレーブ局の合計）

（マスタユニットにより、最大接続スレーブ数が変わる場合があります。マスタユニットの取扱説明書にてご確認下さい）

最大局間距離：100 m

局タイプ：リモートデバイス局

リンクデバイス：RX / RY 16 点、RW_w / RW_r 16 点

ネットワーク番号：自動認識（電源 ON 後、最初に接続した CC-Link IE Field マスタ機器のネットワーク番号に自動設定します）

同期通信機能：対応

データ配置

■リモートレジスタ

●入力データ (RW_r)

本器からマスタ機器に送信するデータを示します。

	15	0
RW _r (n+0)	入力0データ	
+1	入力1データ	
+2	入力2データ	
+3	入力3データ	
+4	未使用	
+5	未使用	
+6	未使用	
+7	未使用	
+8	未使用	
+9	未使用	
+10	未使用	
+11	未使用	
+12	未使用	
+13	システム予約	
+14	未使用	
+15	未使用	

●出力データ (RW_w)

マスタ機器から本器が受信するデータを示します。

	15	0
RW _w (n+0)	未使用	
+1	未使用	
+2	未使用	
+3	未使用	
+4	未使用	
+5	未使用	
+6	未使用	
+7	未使用	
+8	未使用	
+9	未使用	
+10	未使用	
+11	未使用	
+12	未使用	
+13	システム予約	
+14	未使用	
+15	未使用	

■リモート入出力信号

●リモート入力 (RX)

本器からマスタ機器に送信するデータを示します。

	15	0
RX (n+0)	0 入力0 入力範囲異常	
	1 入力1 入力範囲異常	
	2 入力2 入力範囲異常	
	3 入力3 入力範囲異常	
	4 入力0 ADC異常	
	5 入力1 ADC異常	
	6 入力2 ADC異常	
	7 入力3 ADC異常	
	8 未使用	
	9 未使用	
	A 未使用	
	B リモートREADY	
	C 未使用	
	D 未使用	
	E 未使用	
	F 未使用	

●リモート出力 (RY)

マスタ機器から本器が受信するデータを示します。

	15	0
RY (n+0)	0 未使用	
	1 未使用	
	2 未使用	
	3 未使用	
	4 未使用	
	5 未使用	
	6 未使用	
	7 未使用	
	8 未使用	
	9 未使用	
	A 未使用	
	B 未使用	
	C 未使用	
	D 未使用	
	E 未使用	
	F 未使用	

注) 変換値がスケーリング値の上下限值(符号ありの場合-32,768または+32,767、符号なしの場合0または65,535)となった場合にも入力範囲異常となります。

ビット配置

アナログ入力ユニットは、GX Works2 または GX Works3 にてスケーリングが可能です。
詳細は本取扱説明書の設定手順（通常モード）の項をご参照下さい。

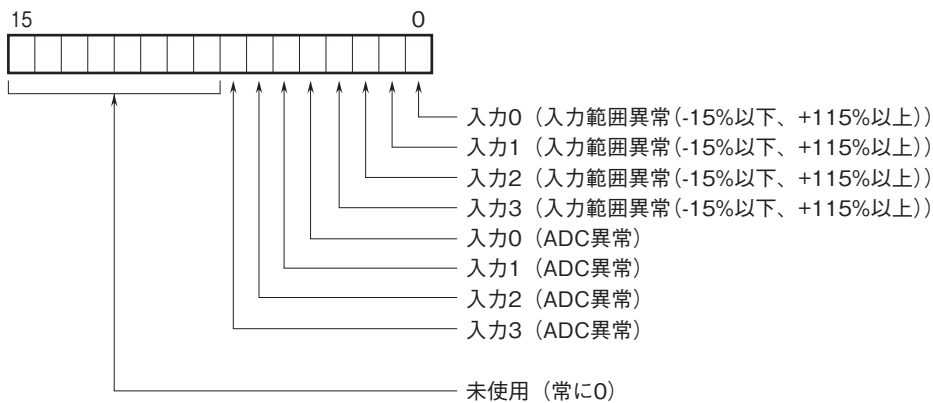
■アナログ入力



16ビットのバイナリデータ
負の値は2の補数で示します。

■ステータス

入力状態を入力ごとに示します。



入力範囲異常

0：正常 1：異常

ADC異常（ADCから返答なし）

0：正常 1：異常

設定手順（通常モード）

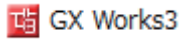
ここでは、三菱電機製エンジニアリングソフトウェア GX Works3 を使用することを前提に、本器の設定手順を示します。

1. プロファイルを登録する

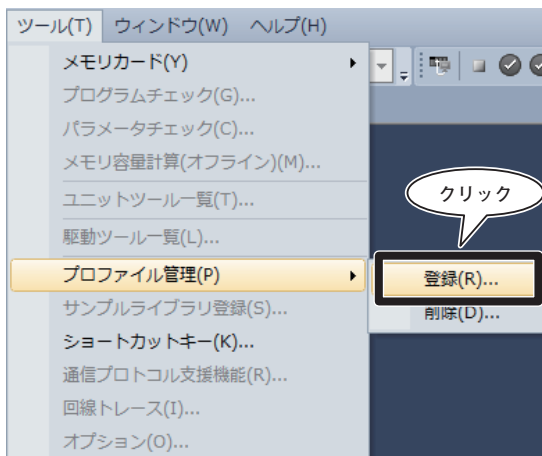
本器は CC-Link ファミリーシステムプロファイル（CSP +）をサポートしています。CSP+ファイルは弊社のホームページまたは CC-Link 協会ホームページ <https://www.cc-link.org> よりダウンロードしてご利用いただけます。

注）本器のパラメータ設定は GX Works2 または GX Works3 上で行うため CSP + の登録が必須です。

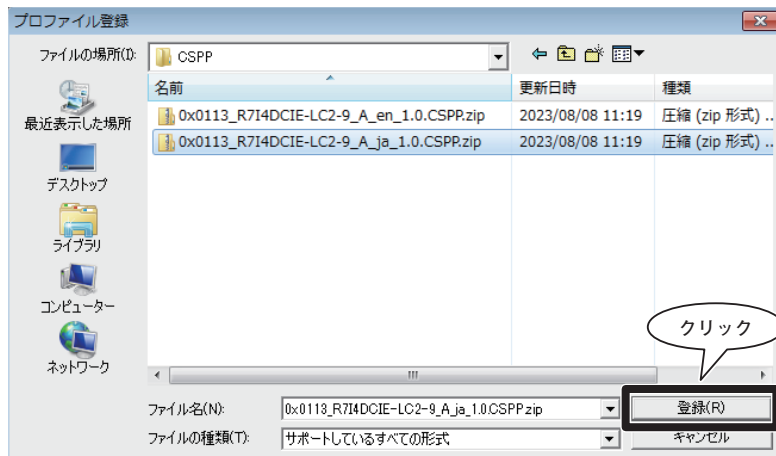
① GX Works3 を起動します。



②メニューの[ツール]→[プロファイル管理]→[登録]をクリックします。

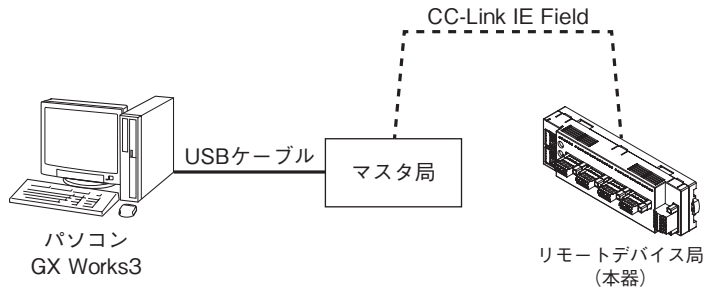


③ダウンロードしたファイルを選択し [登録] をクリックすると、登録が完了します。



2. システムを構築する

下図の構成でライン接続する場合を例に説明します。



- ① マスタ局、リモートデバイス局（本器）を Ethernet ケーブルで接続します。

CC-Link IE Field ネットワーク用 RJ-45 モジュラージャックの CN1 と CN2 は、配線の接続順序に制約はありません。配線時、各機器の電源は OFF にして下さい。

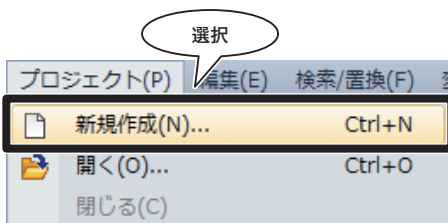
- ② 配線がすべて完了した後、各機器の電源を ON にします。

3. プロジェクトを作成する

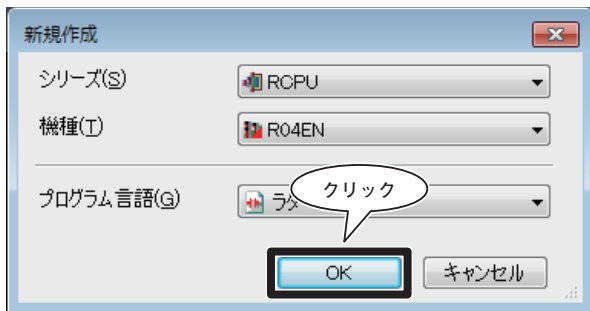
マスタ局と PC を接続し、あらかじめ PC にインストールされたエンジニアリングソフトウェア GX Works3 でマスタ局のプロジェクトを作成します。

- ① エンジニアリングソフトウェア GX Works3 を起動します。

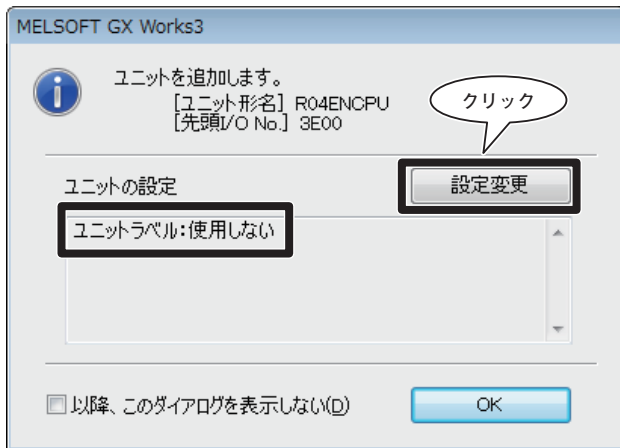
- ② メニューの[プロジェクト]→[新規作成]を選択し、プロジェクトを新規作成します。



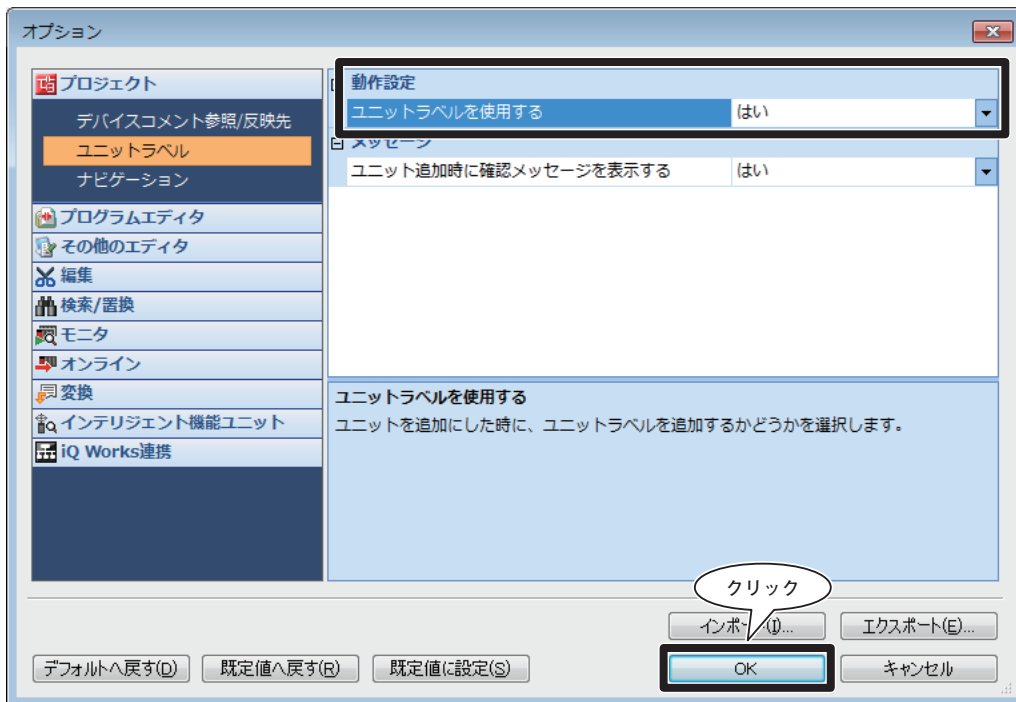
- ③ シーケンサのシリーズ、機種、プログラム言語を選択し[OK]をクリックします。



- ④ 次の画面で[ユニットラベル:使用しない]となっている場合は、[設定変更]をクリックしてオプション画面を表示させ、使用するに変更します。

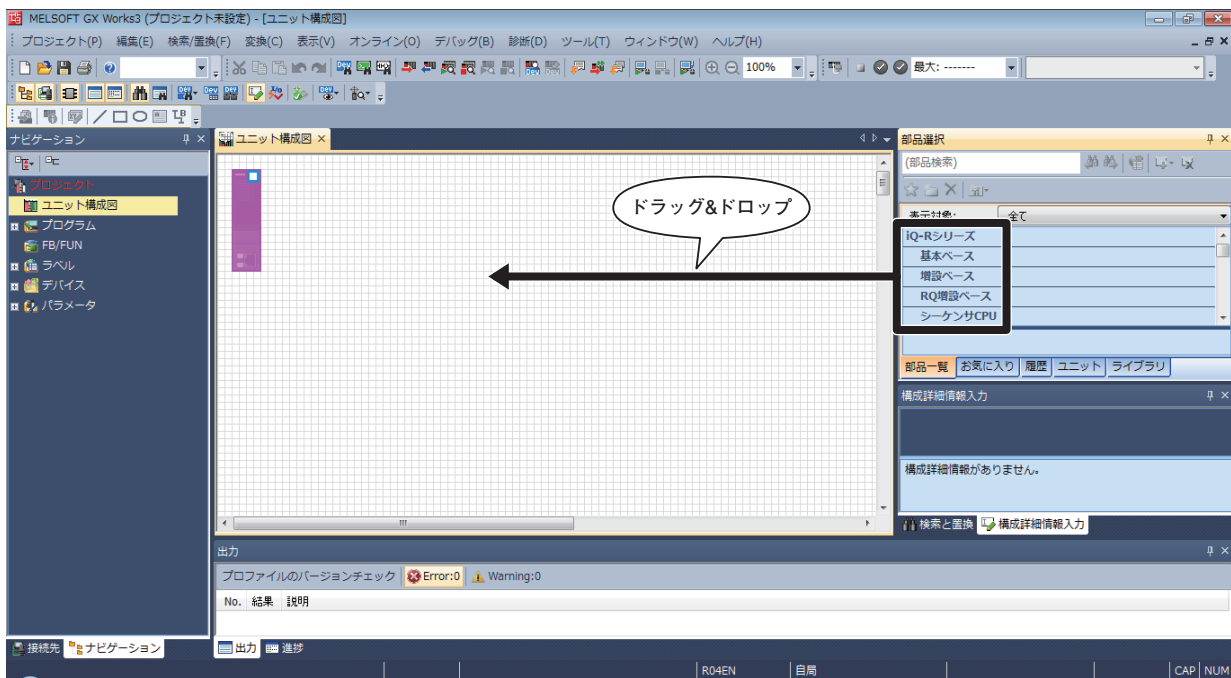


- ⑤ [動作設定]—[ユニットラベルを使用する]の項目を[はい]に変更して[OK]をクリックします。

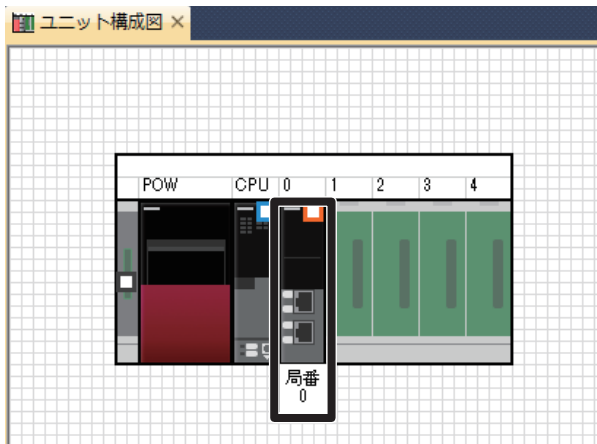


R7I4DCIE1—SVAF4—4

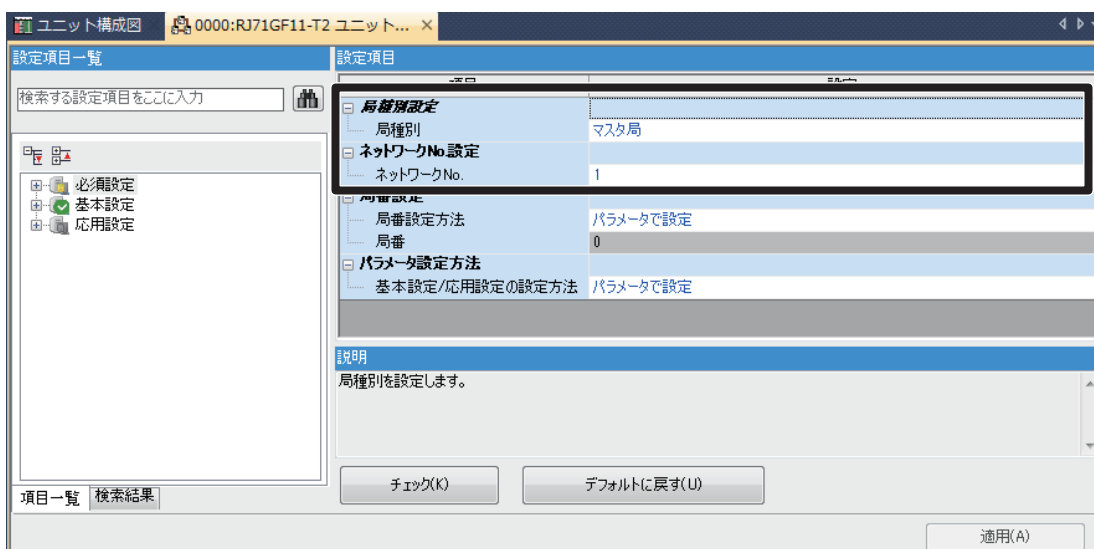
- ⑥ナビゲーションウィンドウの[ユニット構成図]をダブルクリックしてユニット構成図画面を開きます。
実際のシーケンサ構成通りに部品選択ウィンドウの部品一覧から機器を選択し、ユニット構成図にドラッグ&ドロップします。



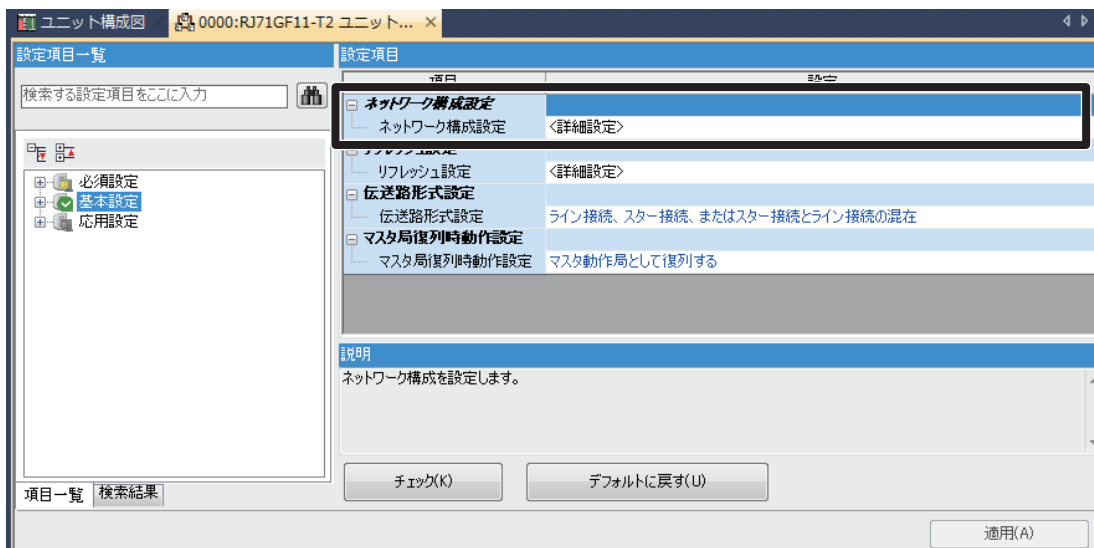
- ⑦ CC-Link IE Field通信ユニットをダブルクリックし、パラメータ設定画面を表示させます。



- ⑧ [必須設定]の[局種別]にマスタ局、[ネットワークNo.]に1を設定します。

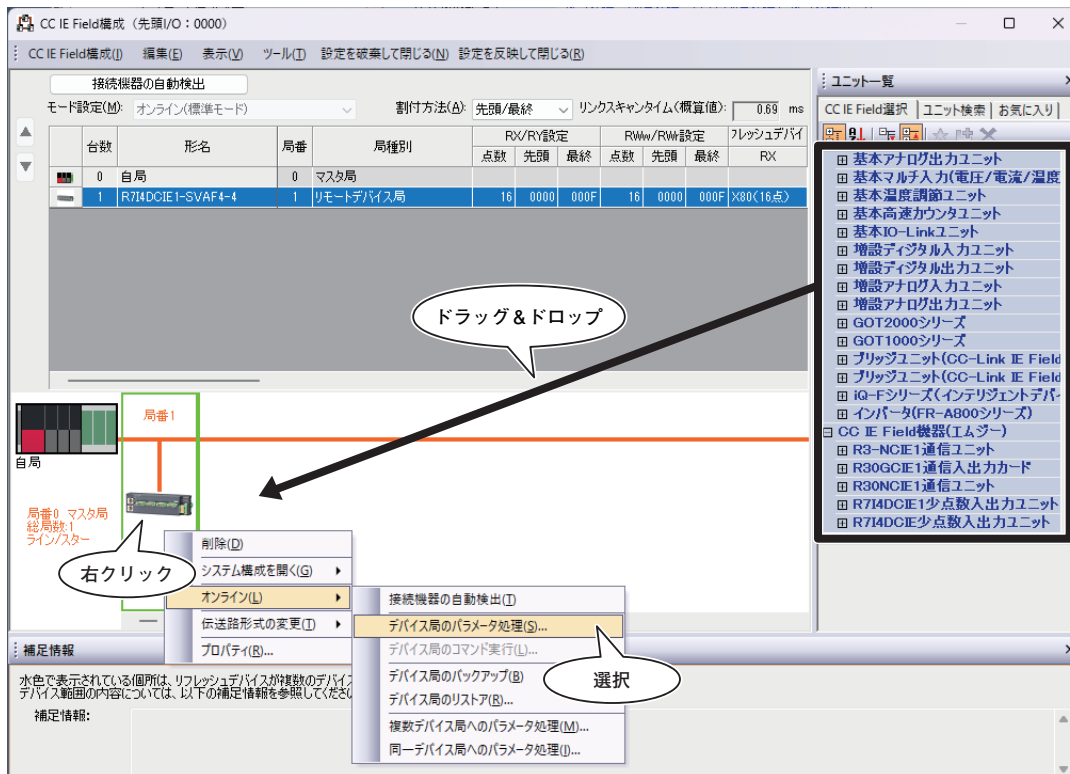


- ⑨ [ネットワーク構成設定]の<詳細設定>を押して[CC IE Field 構成]ウィンドウを表示させます。



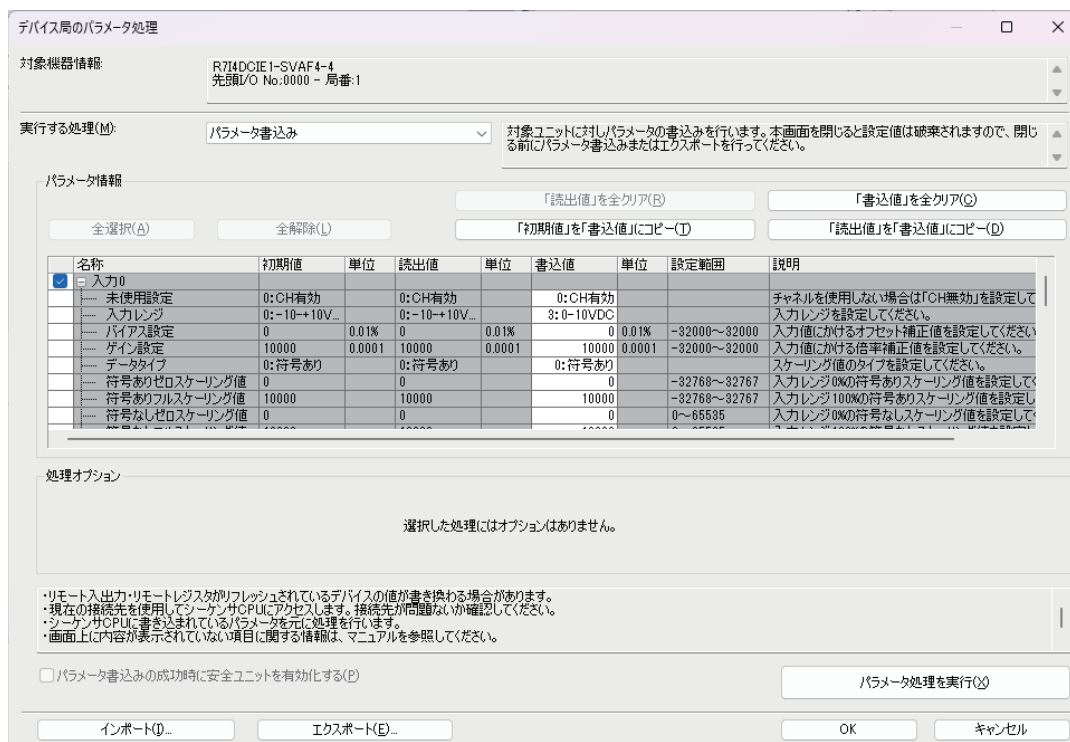
R7I4DCIE1—SVAF4—4

- ⑩実際のシステム構成通りに各構成ウィンドウのユニット一覧から機器を選択し、機器構成図にドラッグ＆ドロップし、ドラッグ＆ドロップしたアイコンを右クリックし、[オンライン] の [デバイス局パラメータ処理] を選択します。



- ⑪実行する処理で [パラメータの書込み] を選択し、[書込値] の欄に設定値を入力して [パラメータ処理を実行] をクリックすると、設定が本器に書き込まれます。

注) 実行する処理で [パラメータの読出し] を選択し、[パラメータ処理を実行] をクリックすると本器からパラメータ設定を読み出すことができ、[「読出値」を「書込値」にコピー] をクリックすることで、機器の設定を書込値の欄にセットすることができます。



■設定一覧

●チャンネル個別設定（入力0～入力3）

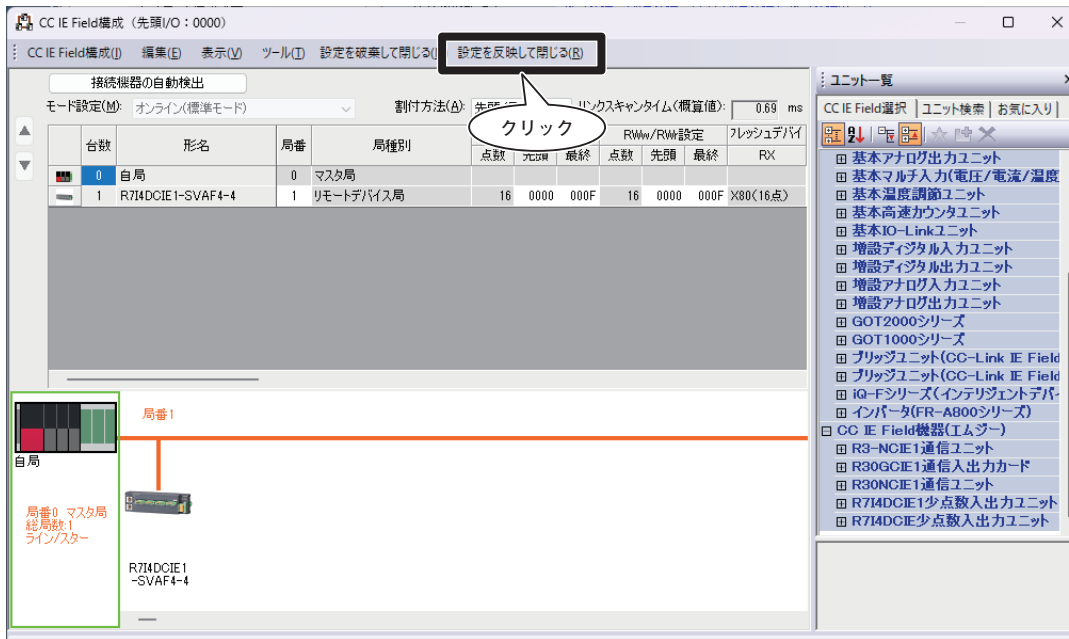
名 称	説 明	設定範囲	初期値
未使用設定	チャンネルごとの入力端子の有効／無効を設定します。 「CH 無効」に設定したチャンネルは、変換動作が停止し、CC-Link IE Field マスタ機器に送信する入力データは0固定となり、入力範囲異常、ADC 異常の検出も行いません。	CH 有効 CH 無効	CH 有効
入力レンジ	チャンネルごとに入力レンジを設定できます。	-10 ～ +10 V DC -5 ～ +5 V DC -1 ～ +1 V DC 0 ～ 10 V DC 0 ～ 5 V DC 1 ～ 5 V DC 0 ～ 1 V DC -0.5 ～ +0.5 V DC -20 ～ +20 mA DC 0 ～ 20 mA DC 4 ～ 20 mA DC	-10 ～ +10 V DC
バイアス設定	入力値にかけるバイアスを入力レンジに対する0.01 %単位で設定します。	-32,000 ～ +32,000	0
ゲイン設定	入力値にかけるゲインを0.0001単位で設定します。 バイアス、ゲインは、入力信号を入力レンジに対する % に変換した入力パーセント値 (P) に対して、下記のような式で計算されます。 補正後 P = (P × ゲイン値) + バイアス値 例) P = 10.00 %、バイアス値 = 100 (1.00 %)、 ゲイン値 = 10,100 (1.0100) の場合 補正後 P = (10.00 × 1.0100) + 1.00 = 11.1 %	-32,000 ～ +32,000	10,000
データタイプ	CC-Link IE Field マスタ機器に送信する入力データのタイプを選択します。 「符号あり」を選択すると入力パーセント値を符号ありゼロ／フルスケーリング値に変換して送信します。 「符号なし」を選択すると入力パーセント値を符号なしゼロ／フルスケーリング値に変換して送信します。	符号あり 符号なし	符号あり
符号ありゼロスケーリング値	データタイプで「符号あり」を選択した場合のゼロスケーリング値	-32,768 ～ +32,767	0
符号ありフルスケーリング値	データタイプで「符号あり」を選択した場合のフルスケーリング値	-32,768 ～ +32,767	10,000
符号なしゼロスケーリング値	データタイプで「符号なし」を選択した場合のゼロスケーリング値	0 ～ 65,535	0
符号なしフルスケーリング値	データタイプで「符号なし」を選択した場合のフルスケーリング値	0 ～ 65,535	10,000

●チャンネル一括設定

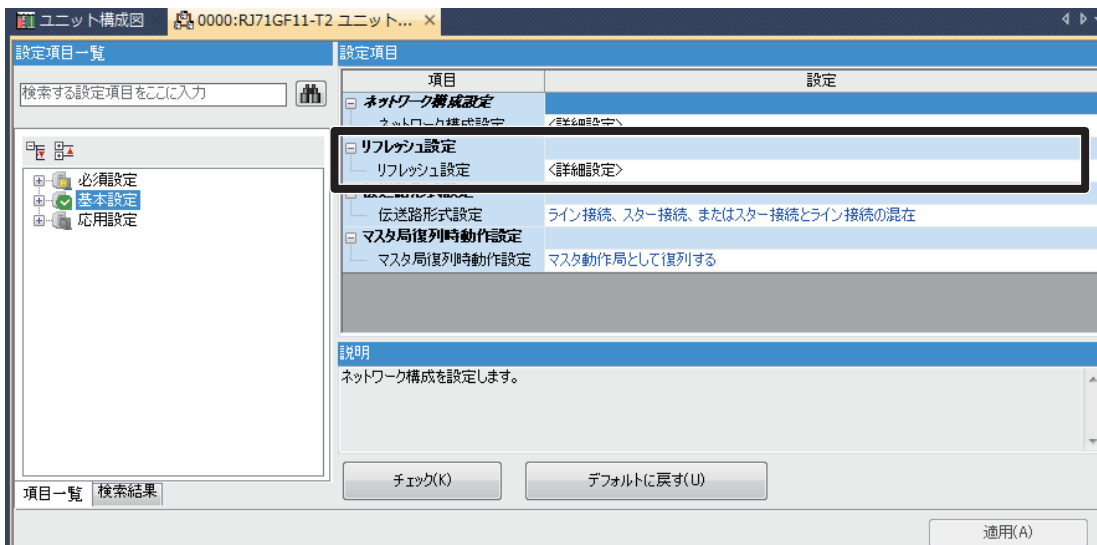
名 称	説 明	設定範囲	初期値
移動平均個数	全チャンネルの移動平均数を設定します。	1、2、4、8、16、32、64、128、256	1

R7I4DCIE1—SVAF4—4

- ⑫ 本器のパラメータ設定が完了後、[OK] をクリックして [CC IE Field 構成] ウィンドウに戻り、メニューの「設定を反映して閉じる」をクリックします。

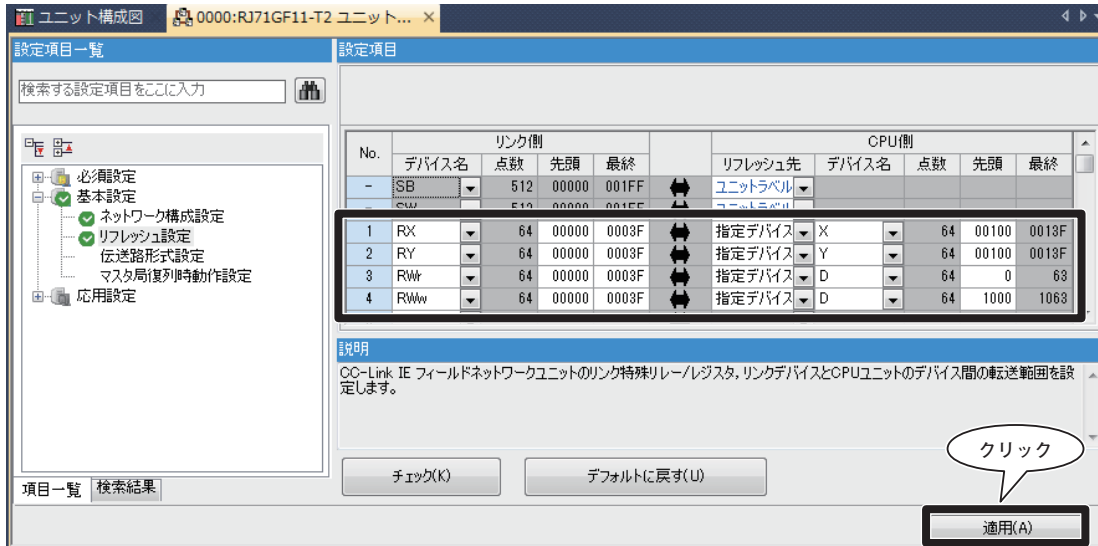


- ⑬ [リンクリフレッシュ設定] の<詳細設定>を押して [リンクリフレッシュ設定] ウィンドウを表示させます。



R7I4DCIE1—SVAF4—4

⑭リンクデバイス RX／RY／RWw／RWr を CPU ユニットに割り付け、[適用] をクリックして閉じます。



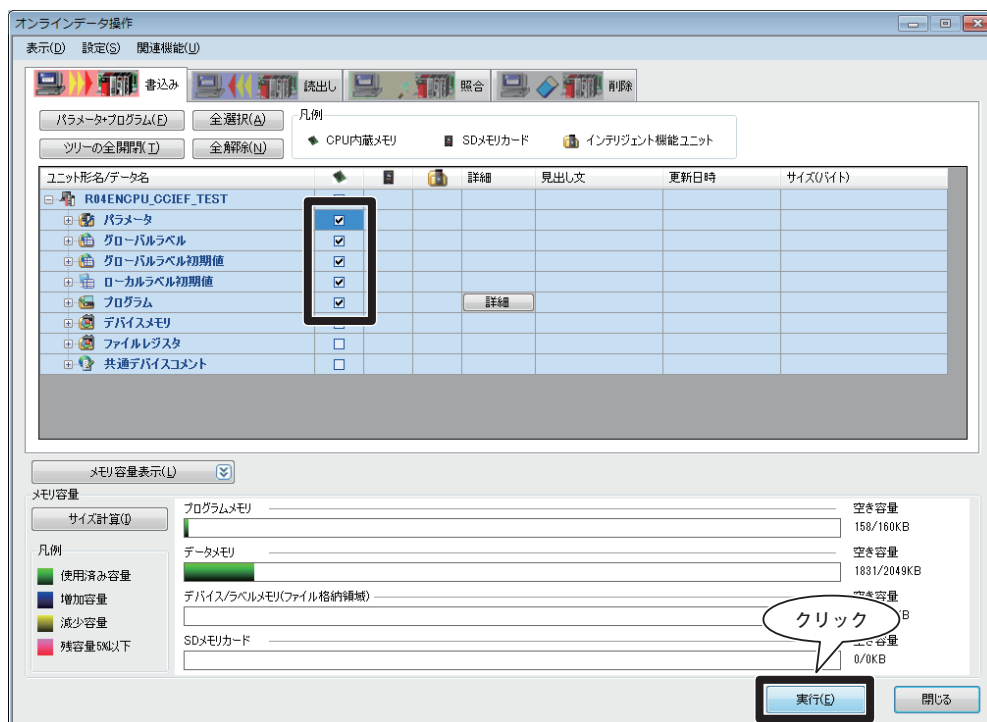
⑮メニュー [変換] → [変換] を実行します。



⑯メニュー [オンライン] → [シーケンサへの書込み] を選択し、オンラインデータ操作ウィンドウを表示させます。



⑰必要項目にチェックを入れ、[実行] をクリックします。



設定手順（同期通信モード）

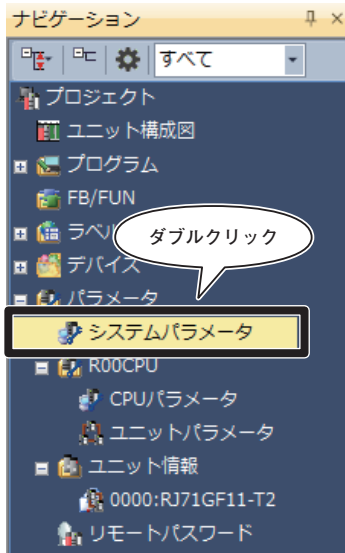
本器は CC-Link IE Field ユニット間同期通信機能に対応しています。

前項「設定手順（通常モード）」でプロジェクトが作成できている前提で、同期通信モードにするための設定について、以下に説明します。

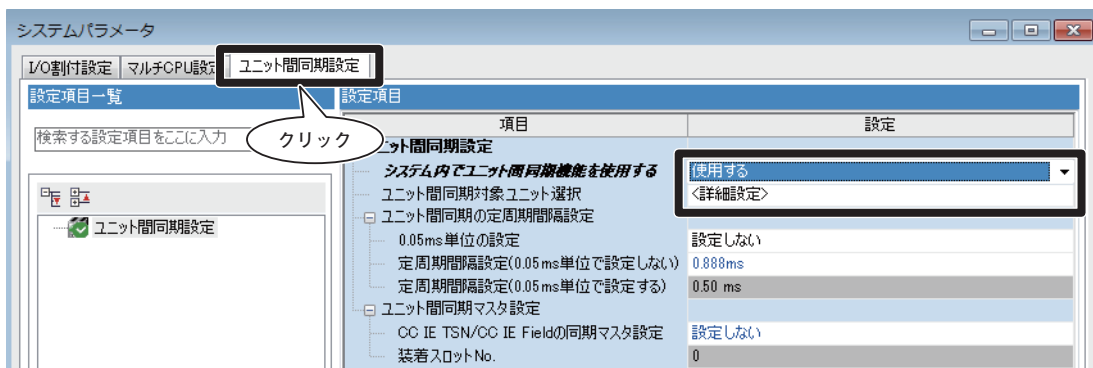
注）ユニット間同期機能使用時は、ユニット間同期割り込みプログラム内で入出力リフレッシュを実施することから、ラダープログラムでユニット間同期割り込みプログラム（I44）を実行する必要があります。

詳細は、マスタユニットの取扱説明書をご参照下さい。

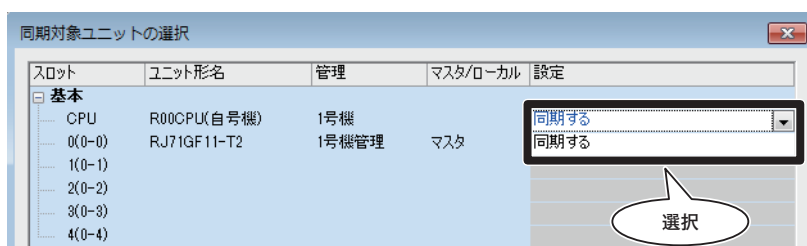
- ①ナビゲーションウィンドウの「パラメータ」－「システムパラメータ」をダブルクリックで開きます。



- ②「ユニット間同期設定」タブをクリックします。
 「システム内でユニット間同期機能を使用する」－「使用する」を選択します。



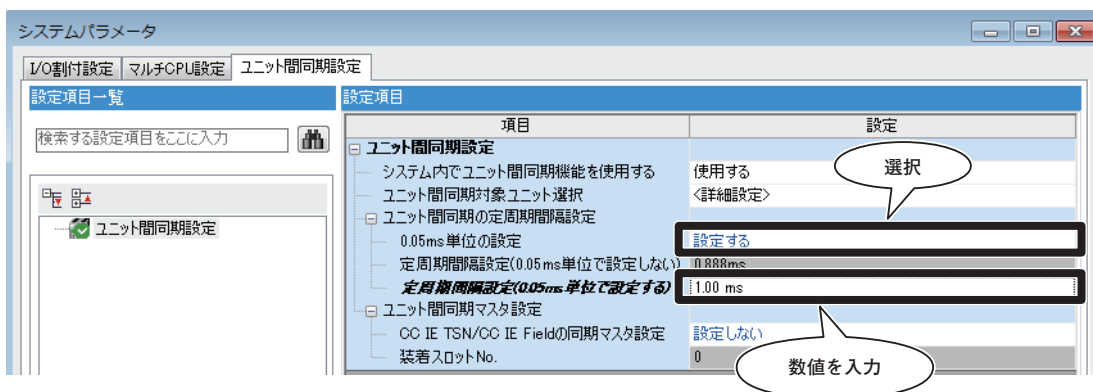
- ③「ユニット間同期対象ユニット選択」－＜詳細設定＞をクリックし、同期対象とするユニットの設定を「同期する」に変更し、「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。



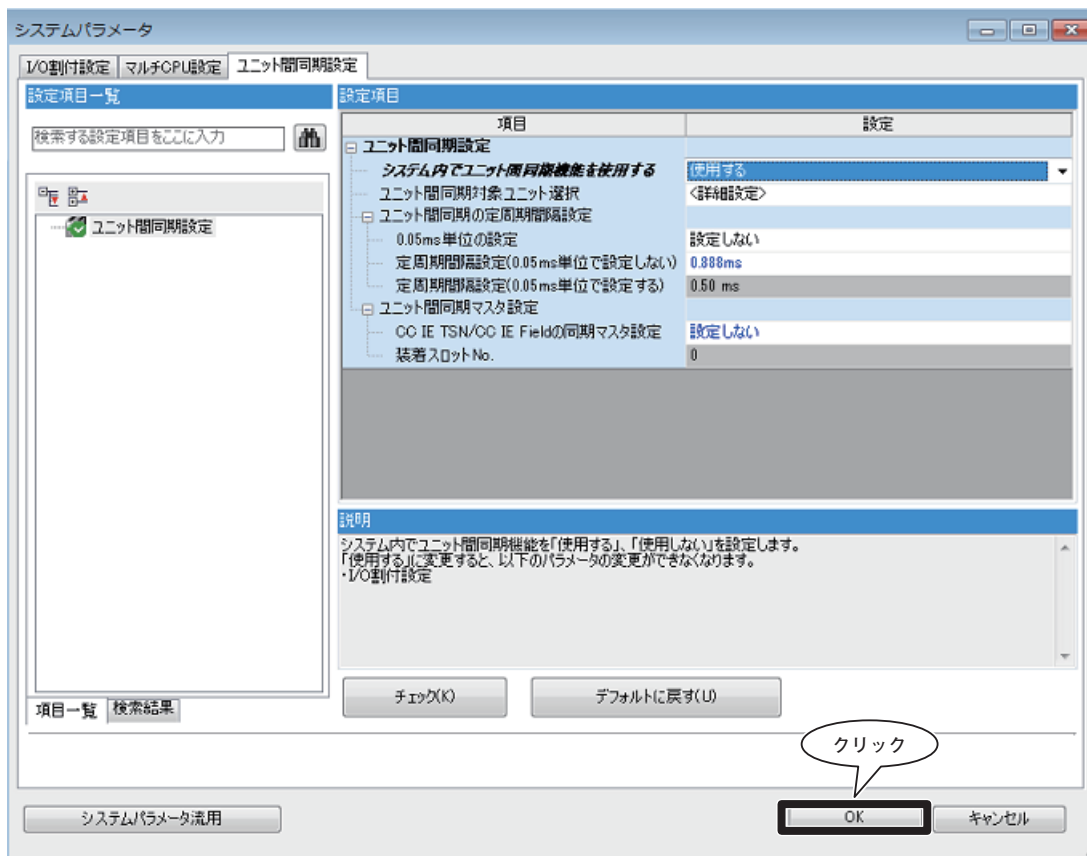
- ④ [ユニット間同期の定周期間隔設定] を 0.05 ms 単位で設定しない場合、[定周期間隔設定 (0.05 ms 単位で設定しない)] の項目でプルダウンメニューから設定値を選択します。



- ⑤ [ユニット間同期の定周期間隔設定] を 0.05 ms 単位で設定する場合、[0.05 ms 単位の設定] — [設定する] を選択し、[定周期間隔設定 (0.05 ms 単位で設定する)] の項目に任意の設定値を入力します。

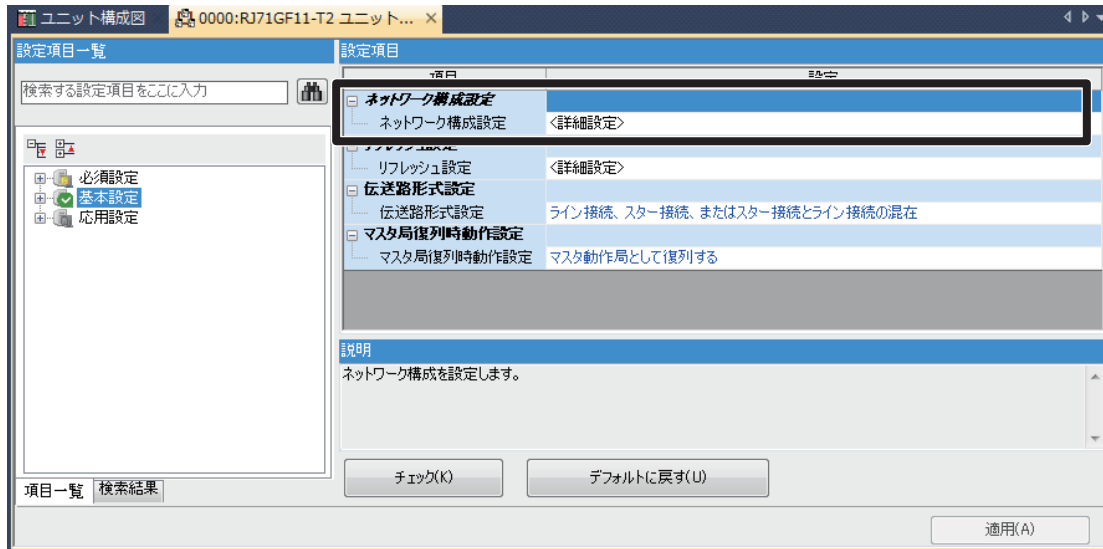


- ⑥ [OK] をクリックし、システムパラメータウィンドウを閉じます。



⑦ CC-Link IE Field パラメータ設定ウィンドウを開きます。

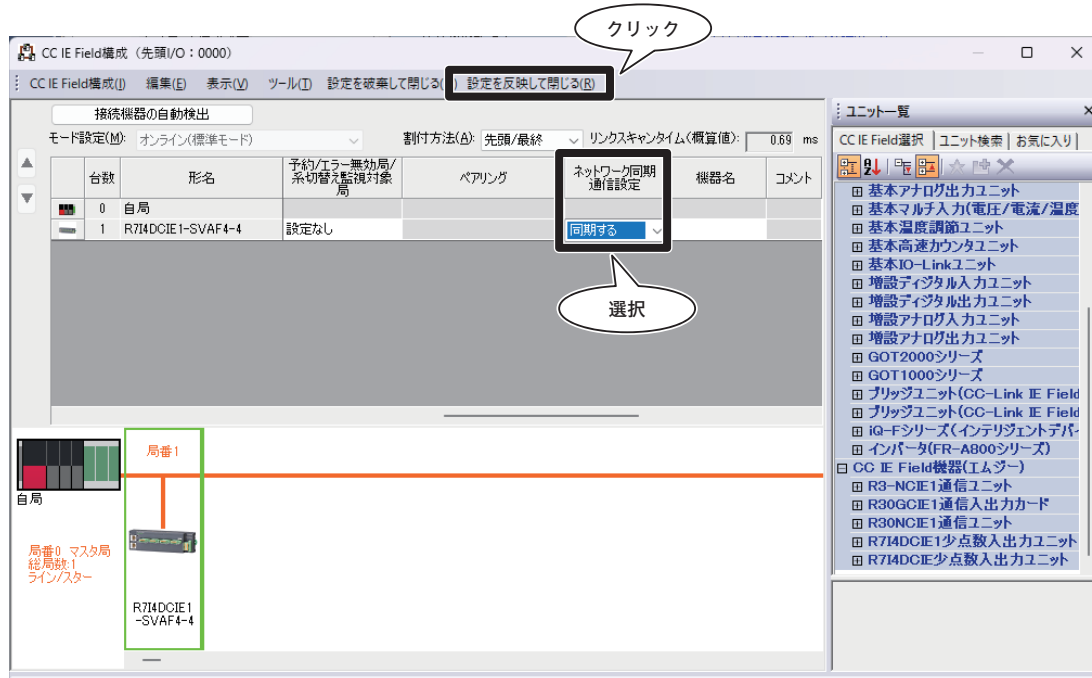
[ネットワーク構成設定] の<詳細設定>を押して [CC IE Field 構成] ウィンドウを表示させます。



⑧ [ネットワーク同期通信設定] を [同期する] に変更します。

メニューの「設定を反映して閉じる」をクリックしてウィンドウを閉じます。

[CC IE Field 構成] ウィンドウで [適用] をクリックして閉じます。



その後、前項「設定手順（通常モード）」⑮以降の手順でシーケンサに書き込みます。

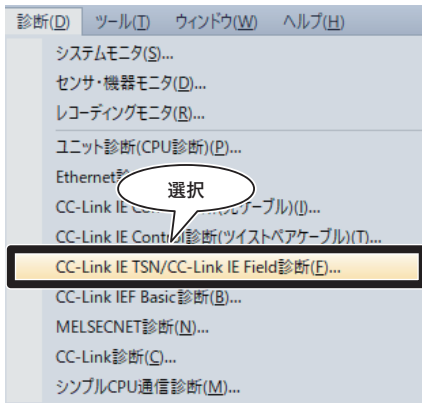
トラブルシューティング

事象とエラー原因に書かれている条件により下表のように対処して下さい。

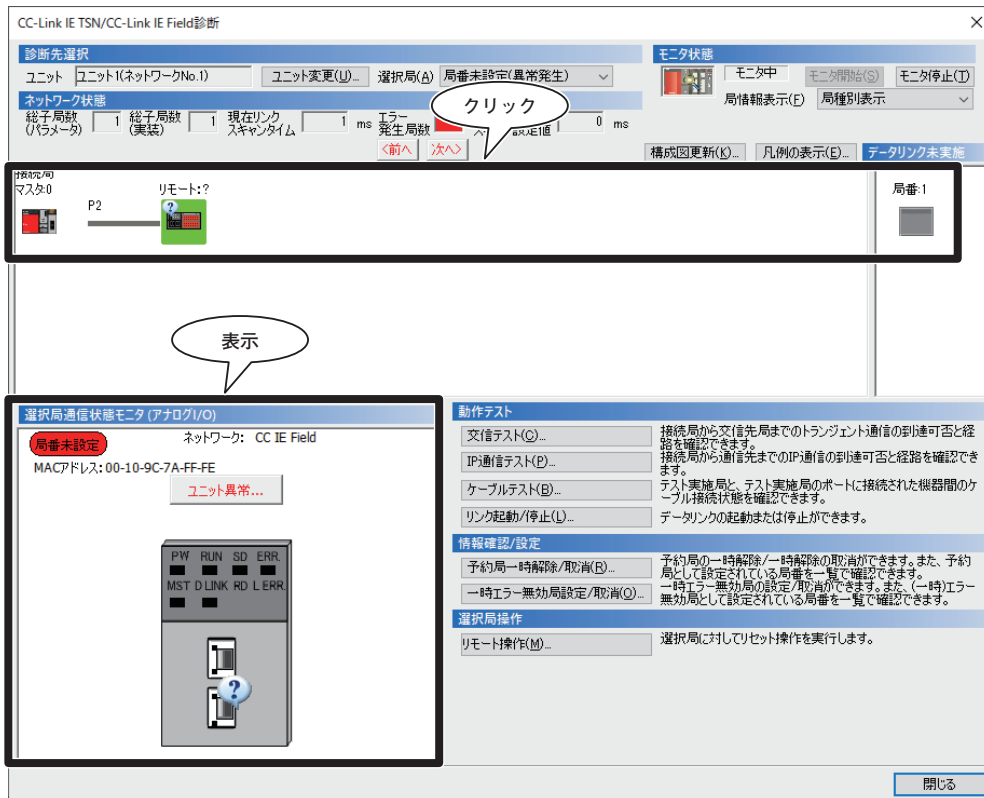
事 象	エラー原因	対 処
マスタ機器と Ethernet ケーブルで接続し、各種設定を行ったにもかかわらず D LINK ランプが消灯または点滅する。	CC-Link IE Field 通信系エラーが発生しています。	GX-Works の CC-Link IE Field 診断（下記参照）で異常内容を確認し、対処して下さい。 CC-Link IE Field マスタ機器のネットワーク番号を変更した場合は、本器の電源を OFF／ON する必要があります。
ERR ランプが点滅する。 または CC-Link IE Field 診断で軽度エラーのアイコン表示がある。	入力範囲異常のステータスビットが 1 の場合、ビットに対応する入力が範囲外です。	入力の状態、本器のスケーリング設定を確認して下さい。
	入力範囲異常のステータスビットが 0 の場合、局番スイッチの変更を検出しました。	局番を変更する場合は、本器の電源を OFF／ON、変更しない場合は、局番スイッチを確認し、元に戻して下さい。
ERR ランプが点灯する。 または CC-Link IE Field 診断で重度エラーのアイコン表示がある。	RUN ランプが点灯、D LINK ランプが消灯し、CC-Link IE 通信が動作していない場合、本器が一旦データリンク中になった後に解列しました。	CC-Link IE Field マスタ機器の動作状況、CC-Link IE Field の通信ケーブル等を確認して下さい。
	RUN ランプ、D LINK ランプが消灯し、CC-Link IE 通信が動作していない場合、本器のパラメータを保存する不揮発性メモリの破損を検出しました。	修理が必要です。
	RUN ランプ、D LINK ランプが点灯し、ADC 異常のステータスビットが 1 の場合、ビットに対応する入力の ADC 故障を検出しました。	修理が必要です。

■CC-Link IE Field 診断

- ① GX Works3 で、メニューの「診断」→「CC-Link IE TSN／CC-Link IE Field 診断」を選択し、「CC-Link IE TSN／CC-Link IE Field 診断」画面を表示します。



- ② 診断する局を選択すると「選択局通信状態モニタ」に局の状態が表示されます。

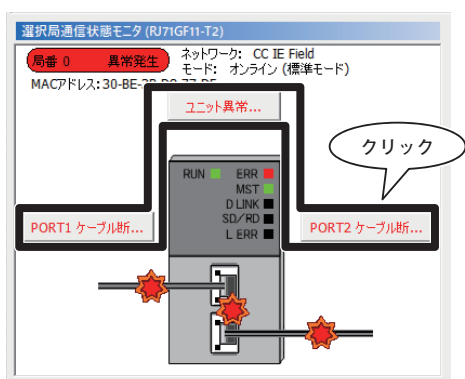


- ③ 局のアイコンに下記のようなアイコンが重なって表示されている場合は、軽度エラー、または重度エラーが発生しています。前項の表に従ってトラブルシューティングして下さい。

注) 重度エラーの場合、CC-Link IE Field マスタ機器にエラー状態が伝わらず、下記のアイコン表示にならない場合があります。



- ④ [選択局通信状態モニタ] で異常発生が表示がある場合は CC-Link IE Field 通信系エラーが発生しています。
[ユニット異常] などのボタンが表示されますので、それをクリックして表示内容に従ってトラブルシューティングして下さい。



保証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後3年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。